

1. 単元名 「世界平和を私たちの町から」

2. 単元の目標

- 世界情勢を見たときに、戦争や差別、食糧問題などの課題についてある程度の知識をインターネットや新聞等を活用して集め、まとめることができる。また、それらの課題が自分の身近にも存在することに気づき、解決を目指した取り組みができる。 (知識・技能)
- 具体的な解決方法にたどり着くことができる。また自分一人の取組で終わるのではなく、協力者を地域社会を含めた世界に向けて発信することができる。 (思考・判断・表現)
- 協力者を募ることができる人材を増やすために、パワーポイントやスライドなどICTを駆使してまとめたり、それらを発信したり、粘り強く取り組むことができる。
(主体的に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

アクティビティを通して、いかに自分の固定観念が自分の行動を制限しているかに気づくことができるように授業を組み立てている。ただし、生徒が自分の意見をグループや学級で発表できる雰囲気や人間関係が構築されていなければ、授業を成り立てるのが難しい。そこで、ICTを活用して意見をPC上で集めてモニタリングしたり、Googleフォームを使って意見を集約したり、活用したりするなどの工夫も学級の状況によっては必要である。

次に、生徒が興味を持った事について調べた世界の課題が、身近な活動を通してやがて世界の課題解決につながると言うことを理解させたい。

(2) 生徒観

本校の生徒は、総合的な学習の時間はG7～G9までを縦割りにして、小グループを作り、課題を設定して研究に取り組んできた。主に里山を保全するための課題や自分たちにできることを考え学習を進めている。例えば、①「木」の有効利用のために「木炭」の生成や倒木などの有効利用を勧めるグループや②里山の希少生物の保全に関わる研究を進めるグループ、③堆肥を有効に利用しエネルギーの生成を探究するグループがある。生徒はそれぞれ自分が興味関心のあるグループを選択し、意欲的に探究活動を行ってきた。与えられた選択肢の中から課題を選び探究活動をする事には慣れている。この学習では、選択肢のない中から自分の興味のある課題を探究するため、初めは戸惑うことも予想される。そのため、どうしても課題が自分で設定できない場合は、ある程度教員側から選択肢を与えることも考えている。ただ、課題が定まり目的が見えれば探究活動に取り組むことには意欲的に活動できるはずである。

(3) 指導観

指導のプロセスは、次の通りである。

- ①自らの行動は思考や価値観が原因になっていることに気づくこと。
- ②世界がよりよい方向に向かうことについて、できない理由を解説するだけでなく、現状を綿密に調べ上げ、その上で自分のできる行動を起こす事。
- ③次にじぶんの起こした行動を他の誰かに伝え賛同を得て、行動を起こしてもらえるように発信できること。
- ④その他の誰かが、自分と同じように、また違う誰かがその行動を広める活躍ができるようになってもらうこと。

①で行う授業では、世界に目を向けた学習になるため、学習が②③④と進むにつれて、自分の身近な課題へといかにシフトさせることができるかが、一つのポイントとなる。そのためには、本校で行っている総合的な学習の時間につなげることが有効だと考えられる。今まで「堆肥」や「炭」、「生物多様性」などの分野で様々なゲストティーチャーに関わってもらっている。まずは教授いただいている内容を生徒が自分たちで活動できるようになる事が必要である。しかし、そのどれも基本的には「里山の保全」を目的とした物である。現在は身近な平和にとどまっているが、そのここで行っている探究活動にある一定の成果を得ることができれば、それを発信することによって世界平和につながるという意識を持ってもらいたい。現在は、どのテーマについても探究の途中であるが、少しでも成果が出た事を発信できれば良いと考えている。

また、発信力を付けるために学級が中学部の中で、プレゼンテーションを繰り返すことを考えている。初めは同じ内容について、複数回行い、同じ内容でもプレゼンテーションの方法を変えることによって、伝わり方が全く異なる事を学ばせたい。話者の視点や重点の置き方などを聞き手（教員を含む）が評価し発表者に伝えて、改善や工夫を繰り返させたい。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

主 体 性…生徒一人ひとりの意識が行動に現れ、その行動が他の誰かを動かすことにつなげることができる。

連 携 性…地域にいる専門家にとどまらず、専門家同士のつながりを最大限に活かし、一人で実現が難しいことも、力を合わせることによって実現が可能である。

持続可能性…課題の解決に1000年の必要だとしても、今始めなければ未来は変わらない。自分たちの世代で解決に至らないことは、活動を次の世代につなげるような取組を考える。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

不可能に思われる現状から可能性を見いだそうとする態度

現状を調べた結果から不可能を悟り「不可能だ」と発信してしまうのではなく、現状を知った上で、不可能だと諦めてしまう立場に立つのではなく、改善しようという立場に立つて物事を前向きに考えようとする意思

不可能に思われる現状から可能性を見いだす問題解決能力

前述の意思を具現化するための発想力、自分の力で進めなくなった時には、誰か専門家等に話を聞いて助言を求める力、同士との協力していく力

研究の成果が得られた結果についての批判的思考力

自分たちの研究の結果を完璧だと思わない謙虚な姿勢と批判的思考力を持ち、常に成果を改善していくことができる。

研究の成果を世に広める発信力

成果が現れた時点で、説得力を持たせて発信する力。プレゼンテーションなどで説明する力だけでなく、ICTを利用した発信や地域の広報誌等への掲載など多様な発信方法を試みることができる企画力

・本学習で変容を促すE S Dの価値観

自然環境・生態系の保全を重視する

多種多様な生物が共生できる世界になるために、考え行動できることは重要であるが、人間を含め、ある特定の種が世界を支配し蹂躪するのではなく、権力を持っている種が生存弱者のことを考えた繁栄の仕方を考える。

幸福感に敏感になる、幸福感を重視する

独りよがりの幸福感を感じるのではなく、他者他人の物を含めて幸福感を共感できるようになる。自分だけ良ければ良いという価値観からの脱却を図る。

・達成が期待されるSDG s

- | | | |
|-----------------------|--------------|-----------------|
| 1 貧困を無くそう | 2 飢餓を0に | 6 安全な水とトイレを世界中に |
| 7 エネルギーをみんなに、そしてクリーンに | | 10 人や国の不平等を無くそう |
| 11 住み続けられるまちづくり | | 13 気候変動に具体的な対策を |
| 14 海の豊かさを守ろう | 15 陸の豊かさを守ろう | 16 平和と公正を全ての人に |

4 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力等	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
①現在、世界が抱えている課題について関心を持ち、身近な課題との関連に気づいている。 ②世界が抱えている課題について多角的に捉え、様々な立場からの主張を理解しつつも解決に向けてのプロセスを見だし、実行する力が身についている。	①資料をもとに課題解決に向けて考え、意見を出し合っている。 ②他者の意見を聞き入れ、自分の考えに組み込んでいる。 ③自分たちの得た知識や技能を他の誰かに伝えている。	①課題に対して知識を得て、解決のために必要な事項を追い求めようとしている。 ②自分たちで解決できない課題だと気づけたら、誰かに協力を得るように働きかけている。 ③自分たちの在学中に解決できない場合は、後輩が取り組みやすいように伝達しようとしている。

5 単元の指導計画（全7時間）

学習活動	○学習への支援	○評価・備考
1 <u>アイスブレイキング</u> ・普段からの習慣や意思が体を動かす 2 <u>課題を掴むためのアクティビティ</u> ・基本的にはどんな意見も否定しないが、無くなっては困るものは取り上げないようにする。 ・ゴミ問題、マクロプラスチック、地雷など、後の課題につながりやすい項目を挙げさせる。	○生徒が授業に取りかかり易いように楽しめる雰囲気を作る。 ○生徒の言葉を拾いながら授業を進める。 ○10年後を想像させながら意見を出させる。 ○意見が出ないときは手法を変える。 ○全会一致で消させるが、できるだけ解決不可能な意見をそれとなく拾う。 ○「解決不可能だ」と言う理由を言い訳にして、やろうとしない＝アイスブレイキングにつなげる。	ア① (知・技) ウ① (主体的)
3 <u>課題について考える</u> ・「2」に出した意見の中から生徒の興味が高いと思われる項目を選ぶ。 ・マイクロプラスチック、ゴミ問題など身近に感じられる課題から、少し自分達とは関係が遠いだろうと思われる戦争や地雷問題など、世界にも目を向ける。 4 <u>課題について調べる</u> ・「2」に出した意見の中で、生徒が興味を持った項目について調べる。 ・まずは、インターネット等を通して現状を理解する場合は、情報の信憑性を強めるために複数の情報を利用する。 ・「今、日本にいて課題を解決する」という立場に立って考える。 5 <u>課題について発表する</u> ・生徒同士でお互いに発表を聞き、助言し合う。 ・時間があれば、発表は同じ項目で複数回行い、改善内容に対しても生徒同士で相互評価を行う。	○現状を大まかに把握させるためにパワーポイントやスライドにまとめ視覚的映像を有効に利用する。 ○聞くだけにはならないように授業を組み立てる。 ○生徒が興味ある項目を選べるように、複数のジャンルで例を挙げる。 ○グループで発表させるか、個人で発表させるかは、学級の状況や生徒の発達段階によって判断する。 ○総合的な学習の時間で今まで積み重ねてきた探究活動を思い出させる。 ○他の発表で良い点を取り入れ、発表を改善させる。 ○指摘された点を真摯に受け止めるとともに、指摘された点に疑問を持ったときは他の生徒か教員に尋ねる。 ○指摘が陰悪なムードにならないように配慮する。	ア② (知・技) イ① (思判表) ウ③ (主体的)
6 <u>発表について専門家の意見を聞く</u> ・環境問題、エネルギー問題、食料問題、レッドリストに載っている生物の問題など、ゲストティーチャーとして学校で講義をお願いする。 7 <u>研究成果を発表する</u> ・学級での発表にとどまらず、可能であればICT等を使って発信する。	○自分たちの探究活動のために頂いたアドバイスを実生活に活かすように考える。 ○ゲストティーチャーからのアドバイスを自分たちの探究活動や発表に取り入れる ○ICTを活用する場合は、個人情報など様々な観点に注意する。	ウ② (主体的) ア② (知・技) イ②③ (思判表)